

健康ネットワーク

閉塞性睡眠時無呼吸症

睡眠時無呼吸は、少なくとも10秒以上の鼻や口からの気流の消失と定義されています。中枢性(脳が原因)の無呼吸は、気流の消失と呼吸努力(胸や腹が膨らみ呼吸する)の両方が無いものです。閉塞性は、呼吸努力があるにもかかわらず気流消失が認められるものです。

10秒以上の消失が1時間に5回、あるいは7時間で30回みられるものが当てはまります。上部気道(鼻から咽頭の虚脱・閉塞は、鼻づまり、口蓋垂の長さ、舌の厚み、扁桃の大きさ、下あごの形、二重あごや首の長さ・太さ、咽頭がんで起こりえます。また、夜尿症・集中力の低下・性機能不全・朝の頭痛・いびき等をもたらします。

副作用のため、内服治療には限度があるものと思われ、体重管理(理

想体重の125%以内に抑えること)や、就寝時のコーヒーやアルコール等を控えるのも効果的です。C PAP管理(マスク)は効果的な治療ですが、マスクの使い心地に悩む人も多いのが現状です。気道の狭い部分を内視鏡で探し出し、手術療法を行う方法では、50%以上の改善率が期待されます。手術が困難な例は、舌の大きな場合

下あご先端の後退した場合
下咽頭の虚脱(吸気時にへちゃんこになる)
体重が理想体重25%以上増の場合があります。

医師 文 明哲



羽生サロがたり

家庭の年中行事 四月(卯月)

- 1日 榛名講(羽生)・お獅子様(上新郷・名)
- 3日 お獅子様(上羽生)・辻がため(稲子)
- 4日 三峯講・お日待ち(三田ヶ谷)
- 5日 彌勒様(彌勒)
- 7日 薬師様(彌勒)
- 8日 花まつり・お釈迦様
- 9日 木綿坊主
- 10日 お獅子様(下手子林)
- 15日 お獅子様(須影)・お日待ち(今泉)
- 三田ヶ谷、上岩瀬、中岩瀬、須影、下村君・春祭り(宿通り)
- 17日 秋葉様・大般若経(本川俣)
- 18日 昼観音(手子林)
- 19日 20日 お日待ち(本川俣・藤井)
- 20日 大師講(稲子)・太子講(小須賀)
- 21日 お大師参り(下村君)
- 24日 お獅子様(砂山)・お日待ち(砂山)
- 25日 お日待ち(東谷)

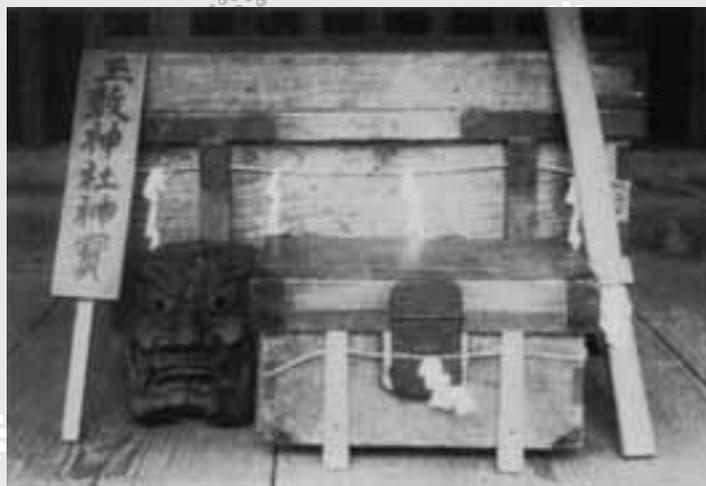
御獅子さま

いつ頃からかはじまったのかわかりませんが、騎西町の玉敷神社にある古文書により、約八十年ほど前から行われていた厄除け、疫病除けの行事で、羽生だけではなく、群馬、古河、深谷等の方まで御獅子様を貸し出してました。

迎え当番の人々は決められた日の前日か、当日の場合は午前三時に起きて玉敷神社へ歩いて行き、太鼓、御注連、天狗の面、剣、木箱の御神宝、お獅子様を借りて来ます。それぞれの地区の氏神様で、お抜いをすませてから、子どもたち(昔は長男だけ)が御神宝をかつぎ、「アララー」「アラライ」「アリアライ」等の掛け声をかけながら、各家の座敷へ裸足でかけ上がります。各家では賽銭箱におひねりやおさ(米)、お金を入れます。

体の弱い人は御注連をちぎって食べる所もあり。村中の家をまわるとまた氏神様へもどり、今度は送り当番の人々がお獅子様一式を玉敷神社へ歩いて返し

に行きます。社務所で御神湯をいただくて来て、祭り当番の人々が飲み、御神酒と御馳走で祝いました。現在は御神湯はなく、往復自動車ですが、玉敷神社の境内は歩く事になっています。



環境 COMMUNICATION

レッツ！リサイクル

生ゴミ処理機補助金交付制度の紹介

家庭から出されるごみの3分の1は、台所から出る「生ごみ」といわれています。生ごみは多くの水分を含んでおり、焼却の際、その水分を蒸発させるために大きなエネルギーがかかります。

そこで、生ごみ処理機を利用し、生ごみをたい肥化することでエネルギーを削減し、同時にごみを減量することが出来ます。さらに、生ごみ処理機は使用方法が簡単なうえ、どなたでも使用することが出来ます。

市では、ごみの減量化対策の一環として、生ごみ処理機購入者に補助金を交付しております。ぜひ、ご利用ください。

対象処理機(業務用を除く)とは？
生ごみを、たい肥化することを目的に製造されたものです。機械的な動作によって脱水し、発酵または分解します。

対象者(これから購入する方)
市内に住所を有する方で、利用者本人

であること

補助額
購入額の2分の1以内
(10,000円を限度とする)

コンポスター(土壌にプラスチック製の円柱を埋め込み、たい肥を作る生ごみ処理容器)の補助も行っていきます。
(限度額・・・一器につき2,000円、一世帯に二器まで交付可)

問い合わせ 環境課(内線294)

コンポスター
生ごみ処理機

鳥風月

俳句 (俳句連盟会員)

- 早春や風に胸張り一千歩 中岩瀬 高橋 恭子
- 下手子林 関根 茂子
- 子の家の建ちて初富士隠れけり 上川俣 田口はつ江
- 下手子林 関根 照子
- ねんねこの背中の嬰のこぼれさう 稲子 田口三子
- 秀 安 関根としえ
- 冬ざれや破れ寺にして由緒あり 南 二田口 睦子
- 上新郷 関根 章子
- 好天に切干広げ一ト筵 上新郷 多田千代子
- 創刊のはにゆうの四季や明の春 中央四 瀬田 芳子
- 松の木の菰の外され寒の明け 須 影 首根 秀子
- かかる日にまた立ち寄りし梅見茶屋 上村君 五月女文字
- なだらかにづく稜線春隣 今 泉 高田 昭子
- のどけしや読みかけの本膝に落つ 須 影 高鳥 洋子
- 千両を活けて客間の改まる 中岩瀬 高橋 恭子
- 春浅し足湯に旅の疲れ解く 上川俣 田口はつ江
- 一家総出やうやく風の揚りけり 稲子 田口三子
- 寒気満つ張り裂けさうに寺の屋根 南 二田口 睦子
- 粥柱おちつき初めし朝餉かな 上新郷 多田千代子
- 短歌 (羽生短歌会)**
- 雪止みて軒につららの光りつつ 北 一 田島 和子
- 虹をはなれてり立春の朝 中央四 瀬田 芳子
- 姑はもう眠りてをらむほのぼのと 車窓を過ぎる施設のあかり 中央四 瀬田 芳子
- 嬰兒を抱き微笑む未娘は いつしか頼もし母親の顔 南 二岡村 新平